

チャレンジプラン

作成年度 平成23年度
作成者 岩田 正

セーフティーチャレンジプラン

作成者 岩田 正

事業主体 岩田 正

はじめに(プラン作成に至った経緯等を記載すること)

平成16年度から平成17年度にチャレンジプランで作業性能の高い機械を導入させて頂き集落内で連反した農地の集積をすることができ、経営も安定し、これまでにコンバイン・籾摺り機の更新と乾燥機導入を自己資金で行うことができました。

経営の現状は、前回のチャレンジプランの計画より受託作業が減り借地が増えています。これは、受託作業を受けていた農地がその近隣農家へ借地に出されたためです。原因は、トマト作業が始まる前に田植えを終えたいため、春の受託作業依頼があっても作業期間的に無理があり断ると秋作業もセットで断られてしまうためです。

今後、さらに規模拡大したいのですが、近隣農地は認定農業者で役割分担し借地しているため、遠方であっても作業効率の良い一定の面積がまとまった団地を借地したいと考えています。そうすることで、地域の耕作放棄地の発生を少しでも防ぐことができ地域の農地保全に貢献できると思います。また借入する際には、適正に管理できることを確認しながら徐々に増反していきたいと思います。

そこで、このチャレンジプランに再度取り組み経営規模の拡大が図れるよう体制を整備するとともに、後継者が安全な作業で安心して就農できるように取り組みたいと考えています。

1 生産経営の現状・課題

1) 生産経営の現状

平成23年度現在

農地 812a (所有地 284.5a、借入地 527.5a)

水稲 739.5a (コシヒカリ 373.7a ひとめぼれ 173.7a ヒメノモチ 192.1a)

トマト 24.0a (水田面積 50.9a) その他野菜 21.6a

受託作業 春(田耕～田植え) 100a 畦塗り 100a

秋(刈り取り～乾燥・籾摺り) 300a

保有機械 トラクター 2台(23PS、33ps) 田植機 1台(6条) コンバイン 1台(3条)

乾燥機 2台(30石、35石) 籾摺機 1台(5インチ)

2) 課題等

現在の作業内容・機械の状態では、農家から作業の依頼があっても受けられないのが現状です。

①大型機械の移動運搬に危険が伴う

現在は2トン車で歩み板を使って農業機械を乗降させています。歩み板を設置する箇所に重みがかかり2トン車に歪みが生じることや、荷台が高いため農業機械乗降時にヒヤッ

とすることが幾度もあります。慎重に作業していますが重大な事故につながりかねません。今後2トン以上の重量のある機械を導入しても安全に移動できるようキャリヤカーを導入し、集落外で規模拡大できるよう体制を整えたいと考えています。

また、今後、後継者を育てるには安全な作業環境を整えておき就農させたいと思います。

②湿田が多く作業が困難

地域は、雪解けが遅く4月中旬まで雪が残っていることがあります。昔から湿田が多く、ほ場整備後25年以上経過しているため排水も悪くなってきています。

トマト作業が始まる5月18日までに田植えを終えるために、トラクター作業は水田に水が溜まっている状態で行わないと田植えに間に合わなくなります。条件の悪い中で作業するとトラクターが沈んで作土層を踏み固めるため、透水性が悪化する・ワダチができる・トラクターが上下に動き自動水平制御機能が間に合わなくなり耕耘した後に凸凹が残る等の影響があります。

また、畦がやせているため畦塗りは欠かせませんが、湿田で行うとトラクターが傾き転倒の危険があります。

2 生産経営等の改善内容(目標)と効果

1) 改善内容

①キャリヤカーの導入

今後、農業者の高齢化等により作業委託していた農地を貸し出すことが増えると思います。このような農地を借り入れしていかないと地域の農地は守れません。

キャリヤカーは、農道に入れる規格を選定し作業する農地の近くまで大型機械を安全に移動することができます。近年は、農業機械の盗難もあるため作業終了後は格納庫へ移動し盗難防止を図ります。また日常のメンテナンスも行い農機をより長期間使用したいと思います。

また、稲刈り時のフレコンの運搬やトマトの出荷が始まれば集荷所への運搬作業に使用します。キャリヤカーは現在使用している2トン車より荷台が低く出荷作業の労力軽減が図れます。

②クローラートラクターの導入

当地域には、湿田が多くトラクター作業が大変困難です。春は特に雪解けが遅く4月中旬まで雪が残っていることがあります。春の作業が遅れるため水が溜まっている状態で無理して作業をしています。

クローラートラクターを導入することにより、湿田でも安全に安定した作業することができます。

2) 事業の効果及び目標

①キャリヤカー導入による効果

・大型機械をより安全に移動することができます。

- ・現在使用している2トン車より荷台が低く、トマトの出荷作業の労力軽減が図れます。

②クローラトラクター導入による効果

ア 低踏圧（踏み固められる深さが浅くなる）

- ・作土層が踏み固められる深さが浅く、踏み固められた深さまで爪が届くため硬盤ができにくく透水性の悪化が防げます。
- ・作土層に硬盤ができにくいので作物の根張りが良くなることが期待できます。
- ・硬盤にタイヤ跡（轍）ができにくく、田植機のハンドルが取られにくくなり作業効率向上が期待できます。

イ 安定性向上と車体の姿勢変化低減

- ・広い接地面で沈み込みが少なく、軟弱な湿田でも安定した作業が可能となります。
- ・車体の上下動が少なく、自動水平制御機能が十分発揮され、耕耘後のほ場が均平に仕上がるため、作物の均一な生育や除草剤の効果が高まります。
- ・同じ出力のホイールタイプよりホイールベースが長くなり安定性が増します。
- ・ほ場の出入りでの急激な姿勢変化が抑えられ安全に作業できます。

③規模拡大

- ・キャリヤカーとクローラトラクターを導入し、春作業の効率化を図り遠方でも借地を増やすことが可能となります。
- ・借地を増やすことで耕作放棄地の発生を少しでも防ぐことができ、地域の農地保全に貢献できます。
- ・栽培管理を徹底し年々反収も向上しています。現在の反収を維持し作業可能かどうか見極めながら規模拡大します。
- ・経営改善計画の目標に到達でき経営も安定してきます。

3 目標達成に向けての取組（年次別の行動計画）

- ・キャリヤカーの導入
- ・クローラトラクターの導入
- ・経営規模拡大
- ・田植機の導入

項 目	内 容	H24	H25	H26	H27	H28
キャリヤカーの導入	チャレンジプラン支援事業にて導入	◎				
クローラトラクターの導入	チャレンジプラン支援事業にて導入		◎			
水稻経営規模拡大		○	○	○	○	○
田植機の導入	田植機6条 自己資金		○			

* ◎は県、町の支援が必要なもの（チャレンジプラン支援事業）

5 支援事業の内容

(単位：円)

年 度	内 容	事業費	事業費			備考
			県	町	事業主体	
24	キャリアカー	5,000,000	1,666,000	834,000	2,500,000	
	小 計	5,000,000	1,666,000	834,000	2,500,000	
25	クローラートラクター	5,000,000	1,666,000	834,000	2,500,000	
	小 計	5,000,000	1,666,000	834,000	2,500,000	
26						
	小 計					